

高校OL界の危機

別ページの報告記事にあるように、インターハイも早いものでこの春で13回目になった。

インターハイは「高校生オリエンティアの日本一を決めよう」という趣旨のもと、それまでの東西対抗リレーに変わる形で始められたものである。20年前くらいの高校生オリエンティア全盛期に比べると確かに人数が減少していたが、それでも高校生のみで100名を越えるエントリーがあり、個人・団体ともそれなりの盛り上がりを見せた。東京には早実・麻布・桐朋・国分寺・保谷、神奈川には川和、埼玉には県立浦和・東京農大三などのクラブが名を連ね、毎年のように優れた人材が育った。学生オリエンテリング界に進んだ彼らが、集団の中で果たした役割は大きい。

それが、近年の大会報告を見るにつけ、人数が少なくなっていることはもちろんのこと、クラブ数も相当に少なくなってしまう。今春のインターハイ団体戦に至っては、事実上3校による選手権争奪となっている。

人数減少の背景

高校生オリエンティアの数が減少した原因に関しては、昨年4月の「O-Forum」誌6号に掲載されている前田直毅氏（トータス；第12回インターハイ実行委員長）の文章に良く説明されている。これによると、原因は以下の三点に集約される。これらは、どれも高校オリエンテリングクラブに共通する特徴である。

- 1) メンバーが入れ替わるサイクルが早い
- 2) クラブを維持していくノウハウに欠ける
- 3) OLに魅力を感じること無く去る人間が多い

高校生の場合は、3年目には大学受験を控える関係で事実上の活動年数は2年間である。2年で全メンバーが入れ代わるということは、1年でも勧誘に失敗すると、たちまち廃部の危機となる。クラブを維持するノウハウは、クラブの人数もさることながら、クラブを支える卒業生の動きとも関連する。ほとんどのクラブでこのアドバイスが得られない状況にあり、毎年のように綱渡りのようなクラブ運営を強いられることになる。

通常、大学生のOLサークルには、OL以外にも飲み会や他のイベントなど盛り沢山の行事が組まれている。そのため、OL自体に魅力を感じられない部員がいても、彼らの活動領域は十分に保証される。しかし、高校生のクラブ活動は学校の管理の影響を強く受けるため、そこまでの多彩な活動は通常は許されない。

高校クラブ成長の条件

つまり、高校OLクラブが成長するためには、生徒のモチベーションを高く保つことと、管理者である学校側（顧問の先生）の理解が同時に必要だということになる。高校クラブにおいて連続性を保たせている唯一の要素は顧問の先生の存在であり、これにOBがうまくリンクできれば理想的な形になる。

桐朋・麻布の両クラブが10年以上も高校オリエンテリング界の第一線で活躍できた背景には、中高一貫校であることの連続性のほかに、OBの強力なサポートがあった。近年のトータスがインターハイの運営を中心に手がけるようになり、両校の中心OBが同クラブで活躍する、というサイクルができていたことが挙げられる。これらの高校は、OBが積極的に働きかけることによって学校側の理解を得るという形になっている。

浦和の場合はこのような形でのOBとの結びつきは希薄である。顧問の先生が現役のオリエンティアで、普段の活動への理解が得やすいというのが最大の強みであり、地味ながらも堅実なクラブ運営のノウハウが引き継がれている。当時の顧問の先生はともに年輩の先生（中野喜美さん・森江進さん）で、すでに退官されて久しいが、近年の活動を思えば、現在でも校内で同様な理解が得られていることと信じている。

これからのサポートの形

高校オリエンテリングクラブにおける技術指導の体制は、一部を除いて非常に貧弱である。この部分が不足しているがゆえに、オリエンテリングに魅力を感じることなく去ってしまう人が多い。その証拠に、高校時代は積極的に活動していなかった人が、大学入学後にめきめき頭角を現したというケースも見られる。

技術指導体制を充実するためには、高校生自前の合宿では不可能に近い。そのため、技術指導のノウハウを持ったクラブとの交流の重要性が今後高まるだろう。

自前の新入生の指導に手一杯で、高校生クラブ同様のノウハウ継承の問題も一部に抱える大学クラブよりは、このような問題とは無縁で、しかも技術的な下地の強い地域クラブとの連携が理想である。

* * *

神奈川県協会では、現在ワンダラーズ、横浜OLC、サン・スーシの一部メンバーが中心となって、12月3日に県協会主催としては初めての大会を開催する。当日はインカレの関東セクションとしての学生用コースの他に、インターハイのセクションとしての高校生用コースも設定する予定である。現在の高校生オリエンティアの現状を調べる作業は全くのこれからであるが、その過程を通じて彼らの現状を理解し、今回の神奈川県協会の活動が高校生オリエンティアの活動の助けに少しでもなれば幸いである。

（サン・スーシ；第4回インターハイ実行委員長）

"Kanagawa 2000" ホームページ

<http://homepage1.nifty.com/kanagawa2000/>

